

平成26年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)

実施報告書

HT26093 里山の生きものから学ぼう



開催日 : 1回目:2014年8月26日, 2回目:
2014年9月27日
実施機関 : 東京農業大学 (川崎市早野
(実施場所) 梅ヶ谷特別緑地保全地区)
実施代表者 : 鈴木貢次郎
(所属・職名) (地域環境科学部造園科学科・
教授)
受講生 : 1回目:中高校生6名, 2回目:小
学生1名
関連 URL :

【実施内容】

1回目の参加者は6名, 2回目の参加者は1名となった。2回目は特に, 申し込み数は4名であったが, 前日までのキャンセルにより, 1名の受講生を対象とした。

両日共, 9:00に集合し, 里山に入るための服装や虫除け, 飲料水を確認した。

参加者, 実施者相互に自己紹介を行った後, 「ひらめきときめきサイエンス」の意義について説明をした。9:30頃に出発し, 里山を象徴する樹木や草本の果実, 種子の説明を行い, 種子の構造や散布との関係, どんぐりの種類を約1時間説明した。その後は, 植物のいろいろな種類, 例えば(臭いのするクサギ等)や菌類(シイタケ)の説明, ムベヤクリ, カキなどの果実の説明と試食, さらに里山の貴重な植物や里山の管理のしかた, その必要性などを実際に触れたり, 試食しながら学んだ。

その後, 昼食を野外でとった後, 午後からは実際に里山で問題になっている竹林の管理を実施協力者と共に行った。竹林の管理は, 密植している竹林の間伐と, 枯れた竹の伐採をノコギリを使って父兄と共に行った。作業中は, ヘルメットをかぶり, 安全に配慮した。

本プログラムは, 机上ではなく実際に野外で作業をしながら生物に触れることができる学習であり, 受講生に分かりやすく研究成果を伝える効果は大きいものとする。また, 受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために, 研究材料のあるヤマザクラの巨木の貴重性について詳しく説明し, そのヤマザクラの巨木を中心に竹林の管理を行い, その周辺の林床

植物の説明を行った。

受講生に自ら活発な活動をさせるために、プログラム内で実際に竹を切るということに留意・工夫した。また、実施場所が川崎市の特別緑地保全地区であることから川崎市の職員にもご協力を得て、官学の協力ができた。事務局には、事前準備において、準備物の購入や独自チラシの作成、申込状況に応じての各校へのチラシ発送をお願いした。当日も事務担当者が現地に引率したり(1回目)、窓口電話連絡対応(2回目)を行うなど密接に連絡を取り合った。広報については関連校への広報やキャンパス見学会においてもチラシを配布するなど本プログラムの周知広報に努めた。特に2回目の実施で申し込み数が少なく、キャンセルが多かったのは、この時期は、いろいろな行事が多いことによるものと思われた。次年度以降に行うことができるとしたら、本プログラムの場合、夏休み中に実施できるようにし、小中高生あわせて実施した方が望ましいと思われた。



写真：間伐・観察の様子

【当日のスケジュール】

- 8:00教員等スタッフ 東京農業大学出発
- 9:00現地到着、道具などの準備
- 9:30受講生 実施会場集合、開講式(1日のスケジュールの説明、科研費の説明)、現地移動:徒歩5分
- 10:00現地にて道具の取り扱いの注意、危機管理指導
- 10:30植物等の観察、指導(途中休憩あり)
- 12:00昼食(教員等スタッフ、受講生は各自持参)
- 13:00更新、間伐作業の実施(途中休憩あり)
- 14:30作業終了、道具の取り扱い(片付け)の説明
- 15:00修了式(アンケート記入、未来博士号授与)、受講生解散

15:30現地出発

16:30東京農業大学到着、道具類の片付け、反省会、解散

【実施分担者】

亀山慶晃 地域環境科学部造園科学科准教授

國井洋一 地域環境科学部造園科学科准教授

栗野隆 地域環境科学部造園科学科助教

水庭千鶴子 地域環境科学部造園科学科准教授

金子忠一 地域環境科学部造園科学科教授

【実施協力者】 10 名

【事務担当者】

武田昌之 エクステンションセンター